学校番号	３０１６

令和３年度　公民科

教科	公　民	科目	倫　理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等倫理 新訂版　（実教出版）						
副教材等	テオーリア最新倫理資料集（第一学習社） ４ステージ演習ノート　倫理（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・倫理の学習については、単なる事項の暗記ではその目的の多くは達成されない。思想家の人生やその思想を、自らの在り方や生き方に照らして追体験することで、より深い理解が得られる。その意味で、現代社会のさまざまな課題や、自分自身のかかえる問題意識との関連を常に念頭において学習を進めてほしい。
・現代社会や政治経済といった公民科の科目に限らず、日本史や世界史、さらには現代文や古文・漢文、保健や家庭科など幅広い教科・科目との関連を踏まえ、幅広く思考する力をつけてほしい。
・ワークシートや考査ごとの小論文などにも積極的に取り組み、自らの思索を深めよう。

2　学習の到達目標

・先哲の思想に学び、自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。
・現代社会における倫理的な諸課題の、思想的な背景を理解するとともに、解決への道筋を自ら考えようとする、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	自己形成に関わる様々な考え方への関心を高め，人格の形成と自己の確立に努めようとする実践的意欲をもつとともに，これらについての諸課題を探究する態度を身に付けようとする。	自己の確立について広く課題を見いだし，多面的・多角的に考察し探究するとともに、自らの在り方・生き方に関わる主体的な立場から判断し，その過程や結果を、文章などで適切に表現している。	人間の在り方・生き方、さらに現代社会の諸課題に関する諸原典や資料を収集し，深く理解するとともに、その内容を自己の確立に資するよう活用している。	自己形成や人間の在り方生き方などに関わる先哲や宗教、様々な思想家について、自己確立の課題とつなげて理解し，人格形成に生かす知識として身に付けている。
評価方法	ワークシート 新聞記事などに基づくレポート 定期考査ごとの小論文	定期考査 定期考査ごとの小論文	定期考査 ワークシート レポート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期1	現代に生きる自己の課題	・青年期の意義 ・青年期の課題	○ ○	 ○	 ○	○	a:青年期の意義に関心を持ち、主体的に取り組む意欲を持つ。 b:青年期の成立と延長の意味と課題は何かを考え表現する。 c:青年期の在り方について自分の意見をまとめられる。 d:青年期の意義・課題についての知識を深める。	定期考査 ワークシート
前期2	人間としての自覚	・ギリシア思想 ・キリスト教 ・イスラーム ・仏教 ・中国思想 ・芸術と人生	○ ○ ○ ○	○ ○ 	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ 	a:先哲や宗教に興味を持ち、自らと関連づける態度を養う。 b:多様な考えを比較して考え、その価値を判断し表現できる。 c:自らが興味を持つ思想について、理解を資料等で深める。 d:様々な宗教や思想の類似点や差異を理解する。	定期考査 小論文
前期3	国際社会に生きる日本人としての自覚	・古代日本人の思想 ・日本の仏教思想 ・近世日本の思想 ・西洋思想の受容と展開	○ ○ ○ ○	 ○	 ○ ○ 	 ○ ○ ○	a:日本の思想への関心を落ち、その意義を理解しようとする。 b:日本文化の独自性と普遍性が何かを考え、表現する。 c:多くの思想家から、自らの生き方に関わる人物を選べる。 d:世界との関わりの中で日本の思想の特徴を理解している。	定期考査 小論文
後期1	現代に生きる人間の倫理	・ルネサンス・宗教改革 ・近代の自然観・新しい学問の方法 ・社会契約論/カント/ヘーゲル ・功利主義/プラグマティズム/社会主義/実存主義 ・現代思想　理性・言語への反省/他者へのまなざし	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:近現代思想に関心を持ち思索の糧としようとする。 b:思想相互の関係を考え、それぞれの是非を判断し、自らの立場を文章などで表現できる。 c:各思想家の原典資料を理解し、その趣旨を把握できる。 d:近現代思想の継承・対立関係を理解し、思想の発展を知る。	定期考査 小論文
後期2	現代の諸課題と倫理	・生命倫理 ・環境倫理 ・家族/地域社会/高度情報化社会/異文化共生の課題/人類の福祉	○ ○ ○	○ 	○ ○ ○	 ○	a:現代社会の課題を自らの問題として取り組もうとする。 b:問題の因果関係や背景を考察し、解決策を自ら示せる。 c:様々なメディアを活用する。 d:問題の要点を理解する。	定期考査 レポート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。